

第66回日本寄生虫学会西日本支部大会

プログラム
講演要旨

2010

会期：2010年11月6日（土）・7日（日）
会場：岡山大学 大学院自然科学研究科棟 2F 大講義室
大会長：岡山大学薬学部分子医薬品情報学分野 綿矢有佑
大会事務局：岡山大学薬学部分子医薬品情報学講座
〒700-8530 岡山市津島中1-1-1
E-mail: parawest@cc.okayama-u.ac.jp

ご挨拶

岡山大学の銀杏並木も色づき、美しい季節となって参りました。この度、第66回 日本寄生虫学会西日本支部大会を岡山大学にて開催させていただき運びとなりました。歴史ある本大会を岡山で開催できますことを心から光栄に存じますとともに、本支部大会の更なる発展を祈念いたします。

本大会では寄生虫分野内で多岐に渡る研究の発表が行われます。すべての発表を一つの会場で行いますので、ご専門以外の分野についてもご理解を深めていただき、活発なご討論をお願いいたします。

発表をいただきます先生におかれましては、締め切り延長の後にも多くの演題を登録していただき、ありがとうございました。

今回も前回に続きまして衛生動物学会とは別開催となりましたが、6日に衛生動物学会より感染研 渡邊 護先生にトコジラミについて、また、7日には岡山大学医学部の三井 秀也先生にマゴットセラピーについての教育講演を行っていただけることとなりました。衛生動物学は寄生虫学においても重要な分野であり、興味深いお話をおうかがいできると楽しみにしております。7日の最終セッションとしまして、岡山大学医学部の土居 弘幸教授にアジア大学間協力による公衆衛生分野の人材育成についての講演をしていただきます。研究分野のグローバル化に伴い、アジア各国とのつながりが重要となっている昨今の研究・教育の方向性の一例として是非お役立てください。

本大会期間中に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の文部科学省特別経費プロジェクト【難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業】のシンポジウムも開催いたします。当大学におけるマラリア等の治療薬の創製研究を含め、難治性疾病の治療薬の創製研究についてご紹介致します。また、韓国・漢陽大学の Ahnn 教授にお越しいただき、*C. elegans* のカルシウム結合タンパク質についての講演をしていただきます。Ahnn 教授は分子生物の最先端で長きにわたり研究を行ってこられた研究者です。

本支部大会が有意義な学会となりますことを心より願っております。

末筆ながら、本支部大会のためにご協力いただきました愛知医科大学 木村英作教授、独協医科大学 千種 雄一教授、寄生虫疾患臨床検討会の奈良県立医科大学 吉川 正英准教授、そして東日本支部より本大会にご出席いただきます東京大学 北 潔教授に深謝いたします。

平成22年11月6日

第66回日本寄生虫学会西日本支部大会
綿矢有佑

大会日程

11月6日(土)	11月7日(日)
	8:30 受付
	9:00 セッション7 教育講演2
	10:20 休憩
	10:30 セッション8 診断1
11:30 受付	11:30 セッション9 教育講演3
	12:00 評議員会
13:00 開会の挨拶	13:00 西日本支部総会
13:05 セッション1 蠕虫1	13:30 セッション10 寄生虫疾病 臨床検討会
13:50 セッション2 蠕虫2	
14:35 休憩	
14:45 セッション3 教育講演1	14:45 セッション11 診断2・予測
15:10 セッション4 原虫1	15:30 休憩
	15:40 セッション12 蠕虫3
15:55 休憩	16:25 セッション13 教育講演4
16:05 セッション5 免疫	16:55 閉会の挨拶
17:05 休憩	
17:10 セッション6 原虫2	
17:40 休憩	
18:00 懇親会	

ご案内

1. 受付：
岡山大学大学院自然科学研究科棟2Fロビーにて、11月6日（土曜日）
11時30分から行います。
2. 会費および懇親会費
 - 1) 大会費を前納された方は受付にて、名札をお受け取り下さい。
 - 2) 大会参加費、懇親会費を未納の方は、当日会場にて現金でお支払い下さい。

	大会参加費	懇親会費
一般会員	5,000円 (4,000円)	6,000円 (5,000円)
評議員	6,000円 (5,000円)	6,000円 (5,000円)
学生	2,000円 (1,000円)	4,000円 (3,000円)

カッコ内は事前参加の金額です。

3. 発表形式
 - 1) 一般講演は口頭発表で、発表10分、質疑応答5分の合計15分です。
 - 2) 教育講演1と寄生虫疾病臨床検討会は発表20分、質疑応答5分の合計25分です。
 - 3) 教育講演2は4演題の発表と質疑応答あわせて80分です。
 - 4) 教育講演3と4は発表25分、質疑応答5分の合計30分です。
 - 5) プレゼンテーションはPowerPoint2003 (Windows版)を使用致します。
PowerPoint2007で作成の方はPowerPoint2003形式で保存して下さい。
 - 6) 発表時間の厳守をお願い致します。発表終了1分前（1鈴）、発表終了時（2鈴）、討論終了時（3鈴）にベルで時間をお知らせします。
4. スライドの締め切り
平成22年10月25日（月）必着
 - 1) スライドはCD-Rに保存をして、簡易書留で大会事務局に郵送して下さい。
 - 2) 画像ファイルはなるべく容量を小さくして、動画は使用しないで下さい。
なお、サイズの大きい画像は事務局でサイズを変更させて頂くことがありますので、ご了承下さい。
 - 3) 講演終了後、CD-Rは、事務局で処分致します。また、パソコン内のコピーされたファイルは大会後、事務局で責任を持って消去致します。
 - 4) パソコンをお持ち込みの方は、発表30分前に発表者受付までお越し下さい。

5. 評議員会

日時：11月7日（日）12:00～13:00

場所：第二講義室

評議員には、お弁当を用意しております。

6. 総会

日時：11月7日（日）13:00～13:30

場所：大講義室

7. 関連集会

- 1) 大会2日目、11月7日（日）9:00～10:20、11:30～12:00に文部科学省特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」公開シンポジウムが開催されます。
- 2) 大会2日目、11月7日（日）13:30～14:45まで、第23回西日本寄生虫疾病検討会が開催されます。

6. 懇親会

日時：11月6日（土）18:00～20:00

場所：岡山大学生協 ピーチユニオン3Fレストラン（7ページ地図参照）

- 1) 当日参加者は大会受付にてお申し込み下さい。
- 2) 懇親会会場内でも参加証を必ず着用して下さい。

7. その他

1) クローク

会場2F第二セミナー室に用意します。利用可能な時間帯は11月6日（土）11:30～17:45までです。11月7日（日）は8:30～17:10までです。貴重品のお預かりはできませんのでご了承下さい。

2) 喫煙

指定された場所を除き、会場施設内および周辺施設は禁煙です。禁煙にご協力下さい。

3) 休憩

会場2F第三セミナー室に飲み物を準備しています。

4) 小会議・打ち合わせ

会場2F小会議室（定員19名）1室を準備しています。利用ご希望の方は大会事務局にお申し出下さい。

5) 大会事務局

会場2F第一セミナー室を事務局本部とします。

8. 会場までのアクセス

岡山空港をご利用の場合：

- ・ 岡山空港2番、3番乗り場から「岡山市内方面」行きに乗車
→「岡山大学筋」で下車、徒歩約7分
→ノンストップ便は「岡山駅」で下車後、岡山駅から各種交通機関を利用

JRをご利用の場合：

- ・ 岡山駅：西口広場2F タクシー乗り場から約7分
- ・ 津山線「法界院」駅：徒歩約10分

岡山駅からバスをご利用の場合：

- ・ 岡山駅東口バスターミナル7番乗り場から【16】系統「津高台団地・半田山ハイツ」行き、【26】系統「岡山医療センター国立病院」行き、【36】系統「辛幸」行き、【86】系統「免許センター」行きに乗車
→「岡山大学筋」で下車→大学まで徒歩
(所要時間：バス 約10分、 徒歩 約7分)

山陽自動車道をご利用の場合：

- ・ 岡山ICで降り、岡山市内方面へ国道53号線を直進、右手に岡山県総合グラウンドの木々が見え始めたら約600メートルで岡山大学筋に。岡山大学の標識を左折すれば、時計台が正面に見え、岡山大学に到着します。
- ・ 車でお越しの方は、受付時にお申し出下さい。

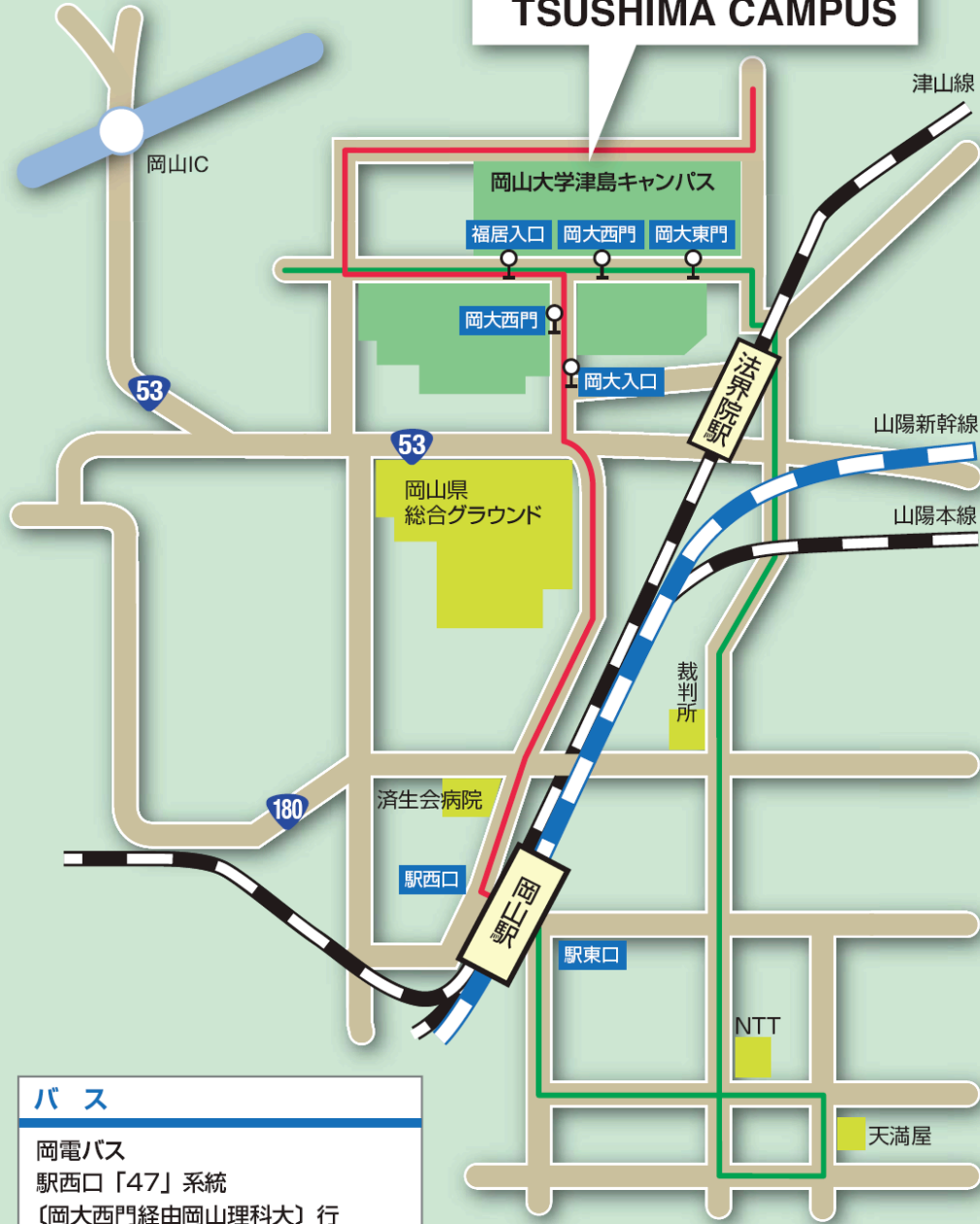


至岡山空港



岡山大学

TSUSHIMA CAMPUS



バス

岡電バス
 駅西口「47」系統
 (岡大西門經由岡山理科大) 行

駅東口「17」系統 (妙善寺) 行

至岡山大学
鹿田キャンパス

会場付近の詳細地図



第66回日本寄生虫学会西日本支部大会プログラム

11月6日（土曜日）

11:30 受付

13:00 開会の挨拶

13:05 セッション1 蠕虫1 座長 吾妻 健（高知大・医）

- 1 浜名湖沿岸の巻貝類に寄生する吸虫類 — 寄生状況とレジアの捕食による種間競争
○原田正和¹、記野秀人²、新井明治¹
¹香川大・医・国際医動物学、²浜松医大・動物実験
- 2 タイ肝吸虫の感染による胆管癌における galectin 遺伝子の発現
○呉 志良、Sirintip Boonjaraspinyo、Thidurat Boonmars、長野 功、浅野一信、高橋優三
岐阜大院・医・寄生虫
- 3 New genotype of *Paragonimus westermani* in India with close genetic similarity to forms from NE Asia
○Kangjam. Rekha Devi^{1,2}, Kanwar Narain¹, Jagadesh Mahanta¹, Tulika Nirmolia¹, David Blair³, Takashi Agatsuma²
¹Regional Medical Research Centre, N.E. Region(Indian Council of Medical Research), Post box#105,Dibrugarh 786001, Assam, India; ²Department of Environmental Health Science, Kochi Medical School, Nankoku city, Kochi 783-8505, Japan; ³School of Marine and Tropical Biology, James Cook University, Townsville, Queensland 4811, Australia.

13:50 セッション2 蠕虫2 座長 宇賀昭二（神戸大・院・保健学研究科）

- 4 大複殖門条虫13症例の遺伝子解析
○山田 稔¹、大西弘太郎¹、手越達也¹、有菌直樹¹、及川陽三郎²、太田典子³、竹田由加里³
¹京府医大・院・寄生病態学、²金沢医大・医動物学、³厚生連高岡病院・臨床検査部
- 5 小形条虫虫卵に対する再感染防御機構
○大西弘太郎¹、浅野和仁²、有菌直樹¹
¹京都府医大・寄生病態学、²昭和大・保健医療・作業療法・生理学
- 6 旋毛虫のES産物について
○高橋優三、呉 志良、浅野一信、長野 功
岐阜大院・医・寄生虫

14:35 休憩

14:45 セッション3 教育講演1 座長 木村英作（愛知医大・医）

- 7 トコジラミ被害の現状と駆除の難しさ
○渡辺 護
感染研・昆虫医科学

15:10 セッション4 原虫1 座長 大西義博（大阪府立大・獣医）

- 8 和歌山県のイノシシに高率に寄生が認められた *Babesia gibsoni* に近縁の *Babesia* 属原虫

○河合敦子¹、佐藤江利子²、大森志保¹、西原力²、鈴木和男³、斎藤あつ子^{1,4}
¹兵庫医療大学薬学部微生物学分野、²同上衛生薬学分野、³田辺市ふるさと自然公園センター、⁴神戸大学大学院医学研究科原虫・寄生虫学分野

9 *Trichomonas foetus* の市販培養液を用いた培養法の開発

○藪 義貞 真田祥太郎 岡田則子
名古屋市立大学・医・免疫学

10 熱帯熱マラリア原虫からの生化学的解析を目的としたミトコンドリア調製法の確立

○畑 昌幸¹、佐藤恵春²、北 潔¹

¹東京大・医・生物医化学、²Division of Parasitology, National Institute for Medical Research, London, UK

15:55 休憩

16:05 セッション5 免疫 座長 福本宗嗣（鳥取大・医）

11 *Strongyloides venezuelensis* の感染防御における好酸球と好塩基球の役割について

○松本真琴¹、安田好文¹、久保允人²、善本知広³、中西憲司¹

¹兵庫医大・免疫学医動物学、²理研・免疫アレルギー研・シグナルネットワーク、³兵庫医大・先端研・アレルギー疾患研究部門

12 旋毛虫感染マウスにおける腹腔マクロファージの Alternative activation

○井上菜菜瀬、入子英幸、大槻 均、福本宗嗣
鳥取大・医・医動物学

13 年一回の集団治療が尿中のフィラリア特異的 IgG4 抗体に及ぼす影響：スリランカにおける7年間の追跡調査結果

伊藤誠¹、Mirani V. Weerasooriya²、Channa T. Yahathugoda²、高木秀和¹、Wilfred A. Samarawickrema²、○木村英作¹

¹愛知医科大学医学部寄生虫学、²ルフナ大学医学部寄生虫学（スリランカ）

14 バンクロフト糸状虫リコンビナント抗原SXP1 の尿診断法への応用と評価

○伊藤 誠¹、高木秀和¹、長岡文晃¹、Mirani V. Weerasooriya²、Njeri Wamae³、木村英作¹

¹愛知医科大学・医・寄生虫学、²スリランカ・ルフナ大学、³ケニア・メソジスト大学

17:05 休憩

17:10 セッション6 原虫2 座長 鳥居本美（愛媛大・医）

15 新規抗マラリア薬の開発研究～環状化酸化化合物の抗マラリア活性と体内動態～

○脇本達也¹、岡田和朗¹、松本雅弘¹、小林明日香¹、森田将之¹、野島正明²、川合 覚³、平本晃子¹、佐藤 聡¹、金 惠淑¹、綿矢有佑¹

¹岡山大・薬・医薬品情報、²大阪大・工、³獨協医大・熱帯病寄生虫

16 環状過酸化化合物の抗マラリア作用機序の解析

○鎌井一気¹、森田将之¹、小山貴彦¹、秀野勇人¹、江 文¹、林 孝輔¹、平本晃子¹、佐藤 聡¹、平岡 修²、平本一幸²、野島正明³、綿矢有佑¹、金 惠淑¹

¹岡山大・院・医歯薬学総合、²就実大・薬、³大阪大・工

17:40 休憩

18:00 懇親会

11月7日（日曜日）

9:00 セッション7 教育講演2 座長 成松鎮雄（岡山大・薬）

- 17 新規医薬品創製における薬物動態の意義 — 薬物代謝酵素を中心に —
○成松鎮雄
岡山大・院・医歯薬
- 18 薬剤耐性菌、食中毒細菌等に作用する天然物質の探索
○波多野 力
岡山大院・医歯薬・天然医薬品開発学分野
- 19 孤発性神経変性疾患発症機序の解明から創薬へ
○上原 孝
岡山大・薬・薬効解析学
- 20 医薬品開発の基礎から応用まで —抗マalaria薬開発研究を例に—
○綿矢有佑
岡山大・薬・分子医薬品情報学

10:20 休憩

10:30 セッション8 診断1 座長 伊藤 誠（愛知医大・医）

- 21 ミツバチの死因に関する寄生虫学的アプローチによる研究
（1）バロア病とノゼマ病について
○大西義博
大阪府大・院・獣医
- 22 毛細線虫類の分子系統分類学的種診断の試み
○戸田正枝¹、相津康宏¹、藤井浩平¹、Mosaab Omar¹、Khaled Sultan¹、佐藤 宏¹
¹山口大・農・獣医寄生虫
- 23 メジマグロ筋線維内寄生の *Kudoa neothunni* の分子系統学的位置づけ
李 迎春¹、○藤井浩平¹、田中秀平²、佐藤 宏¹
¹山口大・農・獣医寄生虫病、²植物病理
- 24 臨床検査領域における寄生虫および衛生動物学的検査の現状
○森本徳仁¹、是永正敬²
¹高知大・医・附属病院検査部、²高知大・医・寄生虫学

11:30 セッション9 教育講演3 座長 北 潔（東京大・医）

- 25 Calreticulin and Calnexin, Two Calcium Binding Chaperone Proteins in *C.elegans*
○Joohong Ahn, Ph. D
Department of Life Science, College of Natural Sciences, Hanyang University, Seoul, Korea

12:00 評議員会

13:00 西日本支部総会

13:30 セッション10 寄生虫疾病臨床検討会 座長 吉川正英（奈良県立医大）

- 26 肺吸虫症、肺外病変に着目して—最近10年間の報告例から—
○西尾福真理子、吉川正英、王寺幸輝、石坂重昭
奈良県立医科大学寄生虫学教室
- 27 腹部腫瘍、両側胸水を伴いCTにて多発異常影を認めたウエステルマン肺吸虫症の1例
○田畑寿子¹、望月吉郎¹、中原保治¹、河村哲治¹、佐々木 信¹、岡本裕子¹、守本明枝¹、水守康之¹、塚本宏壮¹、真弓哲一郎¹、宮川倫子¹、渡部悦子¹、横山俊秀¹、三村一行¹、鏡亮吾¹、大西康貴¹、吉川正英²、杉山広³
¹独立行政法人国立病院機構・姫路医療センター・呼吸器内科,²奈良県立医科大学・寄生虫学教室,³厚生労働省国立感染症研究所寄生動物部
- 28 糖尿病性足潰瘍に対するマゴットセラピー
○三井秀也
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・心臓血管外科・講師

14:45 セッション11 診断2・予測 座長 新井明治 (香川大・医)

- 29 Confirming the usefulness of ELISA to detect urinary IgG4 for the diagnosis of lymphatic filariasis in Bangladesh.
○Mohammad S. Samad¹, Makoto Itoh¹, Kazuhiko Moji², Moazzem Hossain³, Dinesh Mondal⁴, Mohammad S. Alam⁴, Eisaku Kimura¹
¹Department of Parasitology, Aichi Medical University School of Medicine, Aichi, Japan
²Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, Japan
³Disease Control, Directorate General of Health Services, MOHFW, Dhaka, Bangladesh
⁴ICDDR, B, Dhaka, Bangladesh
- 30 バングラデシュにおけるHDLビーズを用いたリンパ系フィラリア症疫学調査
○長岡史晃¹、Mohammad Sohel Samad¹、伊藤 誠¹、高木秀和¹、木村英作¹
¹愛知医大・医・寄生虫学
- 31 日本における蚊媒介疾病流行の可能性について (1) マラリアとフィラリア症
○上村 清¹
¹丸三製薬(株)研究室

15:30 休憩

15:40 セッション12 蠕虫3 座長 原田正和 (香川大・医)

- 32 2010年1月～9月の京都における裂頭条虫症の発生と感染源であるサケ・マス類における幼虫の寄生状況
○山田 稔、大西弘太郎、手越達也、有菌直樹
京府医大・院・寄生病態学
- 33 日本における回虫症：ブタ由来回虫がヒトに感染しているか？
○有菌直樹、芳村悠太、遠坂直樹、山田 稔、手越達也、大西弘太郎、内川隆一
京都府立医大・寄生病態学
- 34 植物由来抽出物を用いた寄生蠕虫ホスファージェンキナーゼに対する特異的活性阻害に関する検討
徳弘慎治¹、長瀧 充¹、朴 炫宣²、岡田 稔²、宮村充彦³、牧 純⁴、宇田幸司⁵、鈴木知彦⁵、○吾妻 健¹
¹高知大・医・環境保健学、²高知県立牧野植物園・資源植物研究センター、³高知大・医・薬剤部、⁴松山大学・薬・感染症学、⁵高知大・理・生化学

16:25 セッション 1 3 教育講演 4 座長 綿矢有佑 (岡山大・薬)

3 5 アジアの大学間協力による公衆衛生分野の人材育成

○土居弘幸¹

¹岡山大・医・疫学・衛生学

16:55 閉会